



▲レセプションで「カチューシャ」を歌う代表团



▲市議会議員との名刺交換「お互いに住みよい町づくりを」と固い握手



▲市立保育所では児童から花束を贈られニッコリ



▲日本古来の武道の素晴らしさのため息が……



▲結婚披露宴で新しい夫婦にプレゼントを贈る団長

ウラン・ウデ市 から代表团

10周年の友好の輪を広めに



昭和47年10月に留萌市とウラン・ウデ市が姉妹都市の縁結びをしてから、今年で10年目に当たります。

それを記念して、さる7月に留萌市代表团がウ市を訪問、その返礼として、今回、ウラン・ウデ市代表团が留萌市を訪問しました。

留萌市の姉妹都市、ソ連プリアート自治共和国ウラン・ウデ市から、10周年を記念して代表团3人が留萌市を訪れました。

今回、訪れたのは、バシケーエフさん（ウ市議会執行委員）を団長に、アンガポフさん（救急病院長）、サルジアンさん（鉄道工場長）の3人。

9月27日朝、留萌市役所を訪問した代表团は「ようこそ」と出迎えた原田市長に迎えられて、ホッとした様子。

一行は、まず原田市長にウベエフ・ウ市長のメッセージを手渡

した後、両市の10年目の友好の絆を確認しました。このあと9月28日まで、留萌市内の経済、教育などの実情をつぶさに見学。

留萌保育所では、かわいい歓迎の踊りに大喜び、また、剣道や柔道、空手などの日本古来の武道披露に、身をのり出して興味を示していました。

また水産加工場、市立総合病院などを見学。留萌工業高校では、実習をしていた生徒に気軽に話しかけていました。

バシケーエフ団長は、「留萌市

民の活躍する姿を必ずウラン・ウデ市民に伝えます。」という言葉を残し留萌に別れを告げました。

▲スーパーに並べてある品物の豊富にびっくり

